

Climbing Information

IFSC 世界ユース選手権 インスブルック2017

栃木勢メダルラッシュ！

ジュニア／榎崎明智 ボルダ―とリードで銀！ コンバインドで金！

ユースB／川又玲瑛 ボルダ―で金！ コンバインドで銀！

8月30日～9月10日までの12日間、オーストリアのインスブルックで世界ユース選手権が開催され、日本からもユース代表が多数参加しましたが、栃木から出場した榎崎明智(ジュニア)と川又玲瑛(ユースB)がそれぞれ快挙を成し遂げました！

対象カテゴリーはジュニア(1998、1999年生まれ)、ユースA(2000、2001年生まれ)、ユースB(2002、2003年生まれ)の各男女。種目はボルダリング、リード、スピードの単種目に加え、今回はオリンピックフォーマットである3種目複合の「コンバインド」も実施されました。

会場となったのは5月にオープンしたばかりのクレッターセントルム(クライミング・センター)・インスブルック。リードルート数500、ボルダ―課題数200、スピード壁2レーンを有する超巨大クライミング施設で、今大会ではさらに特設壁が設置されています。

栃木勢の活躍は、まず9月2日、ジュニアのボルダリング決勝から始まりました。ユースの中でも、ジュニアの世代はワールドカップが多数出場するハードなカテゴリー。日本勢も緒方、榎崎、原田、中上の4名が出場した中、決勝に残ったのは緒方と榎崎。第1課題では緒方が一撃で首位に立つも、第2課題では最後に登場した榎崎が唯一完登！ 第3、第4課題では両者完登し、アテンプトの差で緒方が1位となりました。

1位 緒方良行(福岡岳連) 2位 榎崎明智(栃木岳連) 3位 ヤン・ルカ・ポッシュ(オーストリア)

第2課題を登る榎崎。この課題では唯一の完登者となった。



提供：(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

第一学院高3年・榑崎明智、まずは今大会一度目の表彰台。左から榑崎、緒方、ポッシユ。



提供：(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

続いて9月3日、ユースBボルダリング決勝。日本勢男子は抜井亮瑛、西田秀聖、川又玲瑛の3名が決勝進出。奈良県出身の抜井・西田は、国内大会では常に川又の前に立ちはだかつてきたよきライバル。最後まで接戦が続く中、第4課題を川又が一撃したことで決着！世界という大舞台上で最高の成績を叩き出しました！

1位 川又玲瑛(栃木岳連) 2位 セミヨン・オフチニコフ(ロシア) 3位 抜井亮瑛(奈良岳連)

瑞穂野中2年・川又玲瑛が世界の舞台上で金！左からオフチニコフ、川又、抜井。



提供：(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

9月7日はジュニアとユースBのスピードの決勝が行われましたが、ここでは日本勢は振るわず、栃木に絞ればジュニア男子・榑崎は17位、ユースB男子・川又は29位に終わっています。クライミングの本質からの距離はさておき、スピードの強化はもはや日本勢にとっても避けては通れぬ課題となっていでしょう。

9月8日はジュニアのリード決勝。ここでも緒方・榑崎の実力が光り、ボルダリングに続いてのワンツーフイニッシュを決めてくれました！

1位 緒方良行(福岡岳連) 2位 榑崎明智(栃木岳連) 3位 カイ・ライトナー(アメリカ)

そして9月9日は最終競技となるコンバインド。ここまでの単種目の総合成績から、ユースBは川又がトップで、ジュニアは榎崎がトップで進出しており、否が応にも期待が高まります。

ユースBコンバインドは、リードは西田が1位、ボルダーでは川又が1位、スピードは抜井が1位となり、それぞれ一歩も引かぬ様相を呈したものの、結局はトータル成績でオフチニコフが優勝という、複合ならではの展開となりました。

1位 セミヨン・オフチニコフ(ロシア) 2位 川又玲瑛(栃木岳連) 3位 西田秀聖(奈良岳連)

川又、今大会二度目の表彰台。左から川又、オフチニコフ、西田。



そしてジュニアのコンバインド。緒方がリード1位・ボルダー2位・スピード2位、榎崎はリード4位・ボルダー1位・スピード1位、ライトナーは全て3位となり、見せ場は最後にとっておいたと言わんばかりに榎崎が表彰台の真ん中に立つ結果となりました！

1位 榎崎明智(栃木岳連) 2位 緒方良行(福岡岳連) 3位 カイ・ライトナー(アメリカ)

榎崎、今大会三度目の表彰台でついに中央に。左から緒方、榎崎、ライトナー。



長い大会期間でしたが、榎崎明智君、川又玲瑛君、お疲れ様でした！
それぞれ華々しいメダルを複数獲得、本当におめでとうございます！